第5回（令和6年度第2回）千葉市部活動地域移行推進協議会 議事録

1 日 時 令和7年3月26日（水） 10時00分から12時00分まで

2 会 場 千葉市役所高層棟10階 教育委員会室

3 出席者

【委員】川名議長、堺委員、吉田委員、石井委員、藤咲委員、三谷委員、宮下委員、野村委員

【事務局】教育指導課：八斗課長、竹治指導主事

保健体育課：桑田部活動地域移行担当課長、青木主任指導主事、小山総括コーディネーター、
木下主事

スポーツ振興課：内山課長、奈良担当課長補佐、飯沼主任主事、宮内主任主事

文化振興課：吉野課長

4 議 題

- (1) 令和6年度の取組みについて
- (2) 地域移行の理解を深める取組みについて
- (3) 令和7年度の取組みについて
- (4) その他

5 会議経過

○事務局（奈良担当課長補佐）

それでは、定刻になりましたので、ただいまより、令和6年度第2回千葉市部活動地域移行推進協議会を始めさせていただきます。本日の進行を努めます、スポーツ振興課の奈良でございます。どうぞよろしくお願いいたします。なお、会議終了後、議事録の作成を行い、本市のホームページで公開いたしますので、あらかじめ御了解ください。それでは、開会にあたりまして、議長である学校教育部長からご挨拶を申し上げます。

○川名議長

改めまして皆様おはようございます。年度末のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。この部活動地域移行ですが、令和6年度は40校80部活で実証事業を行い、学校取り組んでいただく中で、成果もありましたが、やはり課題のほうが多いと考えております。例えば、平日と休日の部活動の差であったり、指導者の質であったり、まだなかなか実証できない部分としては、費用面や大会運営などの課題が残されております。しかし、本市は、令和4年度よりモデル事業をしながら、着実に進んできていると考えております。次年度は、全ての学校で複数部活を対象に実証事業に取り組んでいくこととしております。懸念としては、来年度と再来年度に、夏から冬にかけて、体育館のエアコン設置のために体育館が使えなくなる中で、こういった形で展開していくかといったことも課題となっております。その他の課題としましては、本日配布したアンケートの中にもありますが、事務局としては課題と考えていたことが実は良かったといったこともありましたので、実際に実証事業を行ったうえでの実感と共に、あとは皆様方のご見識をいただきながら、次年度どのように推進していくかといったところを検討してまいりたいと思います。また、神戸市のように、大きく方向転

換をして地域移行を全面的に行うという風に宣言したところもありますし、こういった先進的な地域も参考にしながら地域移行を推し進めていきたいと思っておりますので、ぜひ、それぞれのお立場から忌憚ないご意見を願いたいまして、挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（奈良担当課長補佐）

ありがとうございました。議事進行につきましては、議長である川名部長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○川名議長

それでは、議題について事務局からご説明をお願いいたします。適宜、質疑応答の時間は取らせていただきたいと思いますので、その時に皆様からご発言をお願いいたします。それでは、次第における議題について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（桑田担当課長）

※別紙「会議資料（P 3～10）」に沿って説明

○川名議長

それでは、今年度実証事業についての報告がありました。令和6年度は5つの実証課題を持ちつつ、その一つ一つに成果や課題という形で整理をさせていただきました。何かここについてご質問等はございますか。

○吉田委員

校長会で、令和6年度実証事業に取り組んでいる学校からヒアリングした内容と、今回の推進協議会で説明いただいた成果のところが一部異なっているが、そこは現場の声を反映したものになっているのかどうか、学校現場から上がっている声がすべて届いているのかどうかということをご質問させていただきたいと思っております。

○川名議長

ありがとうございます。どのような風に成果や課題を集約していったか事務局からお答えください。

○事務局（桑田担当課長）

はい。この件につきましては、受託事業者とは実証事業の期間中3回の打ち合わせを実施し、事業者がどのように実証事業を運営しているのか、どのような課題や成果があるかといったこともしっかりとヒアリングをしております。また、保健体育課でも今年度担当それぞれが20回くらい休日の地域クラブの活動を視察し、その都度子供たちや指導者からのヒアリングを行い、また事業実施後の効果測定アンケートもふまえて、今回の成果と課題を集約いたしました。吉田委員におかれましては、具体的には何が違うのかご指摘いただけますでしょうか。

○吉田委員

はい。例えば、バドミントンでは毎週顧問が入れかわり立ちかわり変わっていて、地域クラブに来られないときがあったということを知りました。また、実証事業で派遣されるはずの指導者が県外在住の方で、直前に派遣されなくなって困ってしまったということも知りました。人材バンクを活用して派遣された指導者の方について、そういった声が実際に届いているのかどうかお聞かせください。

○川名議長

事務局からご回答いただけますか。

○事務局（青木主任指導主事）

はい。気候等の関係で電車が止まってしまい、指導者が急遽行けなくなったといった個別の案件については、事業者からも伺っております。また、アンケートについては、実証事業対象校の校長先生・教頭先生からもアンケートを実施しておりますので、学校からのご意見は事務局にも届いております。

○事務局（桑田担当課長）

また、逆に地域指導者から話があったのは、「学校側の予定がコロコロ変わるので対応ができない」と言われた事例もありました。会社員だと翌月の予定を含めて入っているのに、当月になって学校から指導者へ急遽予定変更の連絡が来るというところで、この部分については学校側の意識改革も含めて行わなければならないと考えております。また、どのような形で地域指導者の方と学校のスケジュールの調整を行うべきかという点については、課題として認識しております。

○川名議長

運営側の姿勢としても、今年は本当に校長会の皆さんと何回も協議をさせていただきながら、現場の課題については吸い上げているつもりです。また、やっていけばやっていくほどこれを深めていかないといけないと考えております。現場との温度感があるとうまくいかないと思いますので、引き続き連携あるいは現場の声についてはお届けいただきたいですし、こちらとしてもそういったことも含めてやっていきたいと考えております。

○吉田委員

ありがとうございます。令和7年度は全校での実証になりますので、完全移行に向けて、課題をきちんと洗い出して、ある程度課題を解消したうえで完全移行を迎えたいと考えております。また意見をまとめさせていただきながら、より良い実施に向けて協力させていただきたいと思います。

○宮下委員

非常によく進めていただいております。ありがとうございます。まず、スポーツ安全保険とはどういったものなのか詳しくお聞かせください。この保険には実証事業に参加している子どもたちは全員加入しているのでしょうか。また、保険料はだれが払っているのでしょうか。次に、「地域指導者」と「統括責任者」という文言があるのですが、これは受託事業者の中の役割分担なのでしょうか。最後に、兼職兼業願というのは、職員は受託事業者に登録してから派遣されるものなのか確認させてください。

○事務局（桑田担当課長）

はい。まずは保険についてですが、スポーツ安全保険は今回の地域移行を機に国が拡充をするように保険会社に働きかけをして、今の学校で加入している保険と同等の補助内容が提供されております。地域クラブに参加する際は必ずこの保険に加入しております。保険料については、受託事業者が子供たちの参加人数を把握したうえで、1人あたり800円で保険加入の申請をしています。次に、「地域指導者」と「統括責任者」についてですが、「統括責任者」は運営事業者の中で実証事業を実施するうえで責任者となっている方となっております。「統括責任者」が直接「地域指導者」と連携しながらトラブルの解決に当たったという事例となっております。最後に、兼職兼業の職員については、基本的には運営事業者に委託契約という形で契約したうえで、立場上は運営事業者の契約された者として地域クラブに派遣されるイメージとなっております。そういった部分についてはしっかりと事前に教育給与課が出した兼職兼業の届出にのっとっていただくという形になります。

○藤咲委員

進めていただきありがとうございます。このようにアンケートの結果を拝見すると、実証事業に参加して

いる方の満足度が高いです。一方で、組合でいろいろとアンケートを実施している中で「先行きが不安である」という意見をいただいております。この後の資料でも「周知活動に努める」とありましたが、実証事業をやっている方はスムーズに実施できると思いますが、それ以外の全く触れていない・知らない方についての周知の部分については、「部活動移行だより」を発出していただいております、私も読ませていただいておりますが、それがどれだけ浸透しているかご教示いただきたいです。令和6年度に組合で実施したアンケートは年度初めに行ったので、年度末になると認識が変わっている可能性はあると思いますが、年間を通しての周知活動について、地域移行だより以外に何か実施いただいていたかどうかお聞かせいただけますでしょうか。

○事務局（桑田担当課長）

はい。学校現場から地域移行について「よくわからない」「どうなっていくのかわからない」といったご意見をいただいております、周知活動については課題として持っていました。その中で、今年度実証事業が終わるということで、3月13日に全校に向けてオンラインでの報告会を開催いたしました。30分ほどの短い時間ではございますが、兼職兼業で従事した先生へのインタビューや、休日の活動に携わらなくなって負担が軽減された顧問教員へのインタビュー、すべての休日部活動を対象とした実証を行った土気南中学校で、どのような効果が校内で生まれたのかといったインタビューをさせていただきました。また、当日閲覧できなかった方が、後から閲覧できるように措置もいたしました。そういったところで周知を実施しております。とは言え、どこまで先生たちに自分事として捉えていただくかというのが非常に大きな課題であると考えております。その中で、来年度全校複数部活の実証事業が大きなターニングポイントになるのではないかと考えております。学校内でしっかりと議論をいただくタイミングだと考えておりますが、いかに意識改革が難しいかこの2年間で痛感しております。皆様のご協力をいただきながら、来年度さらに理解を深めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○吉田委員

今年度、校長会と保健体育課部活動地域移行班で何度も話し合いをさせていただいております、意識合わせが非常に重要だということを確認いたしました。12月6日に中学校では臨時の校長会を開催し、今後の休日の地域移行の在り方について全ての校長へ説明いたしました。また、部活動地域移行班がQ&Aを作ってくださいましたので、全ての校長が先生方の質問に対して同じ回答ができるという状況を作ったというのが非常に大きな進歩だったと考えております。また、部活動地域移行班が資料作成を実施していただきましたので、その都度学校現場では、校長が職員と説明する場面を今年度3回は持てたと思います。また、大きな課題としては、小学校には私たちが使った資料をメールで送っているだけなので、今後は小学校の先生にも同じように説明する必要があると考えています。また、校長会のほうでは、1月に全体研修会のなかで30分時間をとり、校長先生が持っている不安は何なのかといったことも話し合いをして、それを部活動地域移行班に伝えて、部活動地域移行班から回答いただいているという形で、キャッチボールをしながら現場の意識を高めていく取組を行っています。今年それは非常に有効であったと考えておりますので、次年度もこのような形で広げていけたらと思います。

○川名議長

地域移行は教育委員会が主導して学校現場を動かしていく、という構図に見えがちですが、そうではなく、地域全体の子供たちがどういうふうにスポーツや文化芸術活動にどのように関わっていくか、将来スポーツや文化芸術活動にどうやってつなげていくか、という大きな課題であって、それをそれぞれの団体の中

で推進協議会の提案などを聞きながら、それぞれがどうしていったら実現できるか、という意識を持っていただき、それぞれの団体の中で推進いただくとなれば機運が盛り上がるのではないかと考えております。課題として、小学校の件はその通りかと思っておりますので、令和7年度の取組で実施していければと考えております。

○宮下委員

この実証事業の予算というのは、千葉市はどのようになっているのでしょうか。12月の千葉県部活動地域移行実行委員会にオブザーバーとして出席しました。その中で、実証事業の数で予算額が決まることと、市町村の過疎地域では地域移行が進んでなく、実証事業を進めるために近隣の市町村と統合して計画する動きがあると聞きました。千葉市では、地域移行の予算は県からもらうのか、それとも国から直接もらっているのでしょうか。また、先ほど兼職兼業願の話があったと思いますが、職員の残業時間との関係はどうなっているのでしょうか。

○川名議長

予算の件と働き方改革の件について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（桑田担当課長）

はい。予算については、千葉市は独自の予算となっておりますので、県からではなく市が直接国に申請し、国から委託という形で地域移行実証事業を実施しております。また兼職兼業職員については、労働時間の管理・労働者の健康管理という部分がありますので、過度に労働している職員については校長先生の方で許可をしない、という運用になるのではないかと考えております。

○三谷委員

保護者からの声としましては、この時期になると問い合わせが多くなってきますのですが、その中で3月に小学校6年生の保護者から「中学校に入るけれども部活動がなくなると聞いている。部活に入るのか、それとも今から地域クラブに入る方が良いのか」など、いろいろな話が聞かれます。その中で、千葉市のホームページをご案内したところ、「令和7年2月までのスケジュールしか載っていない」という返答があり、ホームページの更新が止まったままだったんですね。保護者が「中学校」「部活動」で検索すると千葉市のホームページが一番最初に出てきて、いろいろな事例は掲載されていますが、Q&Aも2種類しか載っていないので、せっかくここでいろいろな意見が出て不安に思っているものを解決しているものに関しては、現場に届く前に調べて不安が解消できれば大分現場への問い合わせも減ると思います。周知告知に関しては常に更新いただきまして、いろいろな事例もこういう風に大丈夫なんですよ、というのが載っていれば不安の声も減ってくると思います。また、顧問との連携のところ、アンケートで「部活動と違って休みやすかった」とありましたが、顧問と地域指導者の大会や練習試合の時に出席の連携が取れているのでしょうか。と言いますのも、ジャージのまま部活に行くと言って休日家を出て、部活に行かずに繁華街に行っていたお子様もいらっしゃったようです。顧問の先生なら顔を見ればわかると思うのですが、地域の方だとわからないと思いますので、先生方と連携を取るときに、出欠確認の連携も取れると良いと思います。学校現場からいろいろな声を聞いたうえで、良くしていけたら良いと思いました。

○川名議長

1点目の広報の件と2点目の出席の連携について、事務局から何かありますか。

○事務局（桑田担当課長）

広報については、対外的な発信が疎かになってしまった部分をご指摘の通りかと思っておりますので、しっかり

と小学校6年生の子どもたちの不安を解消できるように、Webからでも確認できるようにホームページを更新していきたいと考えております。子どもたちに説明する際に、学校を經由して新1年生の説明会で説明できるように校長会とも連携させていただいたのですが、その部分で止まってしまっていて、Webを同じように更新することが手薄になってしまったと考えております。また、出欠に関しては、課題の一つではあるのですが、アプリ上で出欠が確認できるようになっているのですが、実際に地域クラブでどのように出欠確認をしていたかという点と、アプリ登録をしていない保護者が一定数いると運営事業者からも聞いております。今後、アプリを使って会費徴収などをするようになると考えておりますので、そこと連携しながらしっかりと対応ができるようにしていきたいと考えております。

○野村委員

アンケートや説明ありがとうございました。1つ確認したいのですが、各種目で中学の専門部があると思いますが、専門部に統一した説明会を実施したことはあるのでしょうか。

○事務局（桑田担当課長）

はい。専門部については、中学校体育連盟の会議などに出席し、地域移行の話をさせていただいております。

○野村委員

実証事業に参加している部活動の顧問と参加しない部活動の顧問で、理解度が違っているというのは、専門部の中で検討会を実施していただき、意見をいただくと良いのではないのでしょうか。

○事務局（桑田担当課長）

そのあたりは、来年度、中学校体育連盟とも大会の在り方について検討していく中で、地域移行の理解を深めるというところで、より良い地域移行になるためにも中学校体育連盟の提案も必要ではないかと考えておりますので、中学校体育連盟とも連携しながら進めていきたいと考えております。

○川名議長

今までの意見のなかに令和7年度の取組につながるようなご意見もたくさんあったと思います。順番は変わりますが、報告の「2 指導者確保・掘起しに向けた取組み」を説明した後に、「その他」の視察や国・他市の動向を先に報告していただき、最後に「令和7年度の取組について」という進行にしたいと思います。それでは、続けて、報告とその他について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（桑田担当課長）

※別紙「会議資料（P 11～12、18～25）」に沿って説明

○川名議長

「2 指導者確保・掘起しに向けた取組み」と「その他」の部分で視察・国の動向・他市の動向について説明がありましたが、ここについて何か確認事項や質問事項はございますでしょうか。

○吉田委員

1つ校長会から要望したいことがございまして、教員が兼職兼業届を提出するときに、手続きが複雑なので簡略化できないか、という要望がありましたので給与課と検討いただけますでしょうか。

○川名議長

指導者掘起しにあった地域クラブ社員採用についてとても良い取組みだと思いますが、これは国の後ろ盾があって実施した取組みなのか、それとも会社独自の取組みなのでしょう。国の動向で「地域全体で支えていく」と国が言っていますが、国が社会へ働きかける動きはありますか。

○事務局（桑田担当課長）

こちらに関しては会社独自の取組みになります。ただし、似たような取組みを仙台市が行っておりまして、事業者が千葉市でも同じような取組みができないか、というところが発端です。事業者としては、「人材確保」兼「アスリート支援」という形で考えているようです。

○川名議長

民間企業では副業禁止、時間外勤務ができないとなった場合に指導者の確保が難しいと考えており、社会全体でそういったこともできると良いと思いましたが、これは今後の検討課題としたいと思いました。

○事務局（桑田担当課長）

民間企業の人事担当との打ち合わせでは、従業員が地域クラブ運営事業者に雇用されるような契約形態では会社としては受け入れが難しいとした一方で、地域クラブの運営を委託される形であれば受け入れられる可能性は高いとおっしゃっていました。なお、同じ条件でお断りされた会社もありましたので、必ずしもすべての会社に対応できるわけではなく、その部分については今後の課題であると考えております。

○事務局（小山総括コーディネーター）

現在、千葉県人材バンクに千葉市を希望している事業者が約590名おりまして、他市と比べると希望者は多いと感じております。ただし、平日も地域移行する場合にはこの人数では足りないと考えておりますので、この先どうやって指導者の数を増やしていくのが課題であると考えております。

○吉田委員

本校では、地域の方が部活動を指導してくださっているのですが、民間企業なので副業を認められていない等を理由に部活動指導員になれなかった事例案があり、非常大きな悩みとなっております。また、現在は部活動指導員に手当が支払われていますが、完全地域移行になった場合にはこの手当は無くなるという整理でよろしいでしょうか。

○事務局（桑田担当課長）

はい。国の方針としましては、部活動指導員については当面は維持すると話をしておりますので、平日の地域移行が全国でどの程度進むかによると思いますが、現時点では引き続き補助対象になっております。また、改革実行期間が一定の目安になると推察していますが、将来的には部活動指導員の制度が無くなるかと考えております。

○川名議長

それでは、「地域移行の理解を深める取組について」と「令和7年度の取組みについて」、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（桑田担当課長）

※別紙「会議資料（P13～17）」に沿って説明

○川名議長

それでは、皆様からご意見やご要望を出していただいて、反映できるものについては反映したいとおもいますので、ご質問やご意見がありましたらお願いいたします。

○吉田委員

私は現場の声を現場の声を反映していくことが大切だと考えております。本日の会議に当たって、本校は来年度サッカーが合同チームになりますので、顧問に課題を聞いたところ、ユニフォームが課題だと言っていました。緑町中学校ではユニフォームを購入しているのですが、合同チームになったときには合同チームの

ユニフォームを買うということになると、保護者負担が非常に大きくなります。このような校長ではわからない視点の課題がありますので、実際に運営している教員の声も非常に大事だと思いました。ので、ぜひ聞いていただくとともに、子供たちの負担が増えないようにということは大きな課題だと思いますので検討をお願いいたします。

○事務局（桑田担当課長）

ユニフォームに関しては、競技によっては異なりますが、合同チームの場合はそれぞれの学校のユニフォームで活動していただいておりますので、地域クラブでユニフォームを作るということは現段階では考えておりません。また、ユニフォームに関しては、平日の地域クラブがどうなっていくかというところで、改めて議論が出てくると考えております。そもそも、今は母体となる平日の部活動があるので、部活動のユニフォームを使うとなっておりますが、母体となる部活動が無くなった際にどのような形で大会に出るのか、ユニフォームをどうするのかといったことは今後の課題です。そもそも大会を地域クラブで出場するという結論を出さなければならないと思いますので、小中学校体育連盟とも議論しながら検討したいと思います。

○野村委員

集約化と拠点化について教えてください。集約化も拠点化も、事務局が位置づけをするのでしょうか。それとも各種目の専門部などの意見を吸い上げて決めるのでしょうか。

○事務局（桑田担当課長）

現時点では、事務局が原案を作成し、関係者から意見をいただきながら事務局主導で行っております。将来的な観点で行くと、距離等で集約化をしていかなければなりませんので、近隣の学校で集約化していく形になります。その中で、学校の事情等で集約化が難しい学校、種目等もあると思いますので、すべて事務局が主導して行うのでは無く、意見を聞きながら進めていきたいと考えております。

○野村委員

具体例を申し上げますと、合同で大会に出場している事例がありますので、やはり現場の意見を反映しなければいけないと考えております。また、拠点化についてですが、ヨットは拠点の位置はヨットハーバーで活動しているので決めやすいと思いますが、柔道や剣道は道場が複数ありますので、拠点化が難しいのではないかと思いますので、ご質問させていただきました。

○事務局（桑田担当課長）

拠点化につきましては、柔道の場合は部活動の数が少ないので、拠点の活動場所は決めやすいと考えております。例えば、緑区の場合は誉田中学校、中央区の場合は生浜中学校と蘇我中学校にしか柔道部がありませんので、緑区の生徒は誉田中学校、中央区の生徒は生浜中学校又は蘇我中学校を拠点の活動場所になると考えております。剣道についても、今回実証事業に参加したところについては、剣道部が無い近隣の学校は活動に来ることができるようにしたいと考えております。競技ごとによりますので、現場と話をしながら拠点化を進めてまいります。

○野村委員

わかりました。もう一つ、指導者の確保も重大な懸案事項であると考えておりますので、力になれるところがあれば協力したいと考えております。

○事務局（桑田担当課長）

先日、公益財団法人千葉市スポーツ協会の担当者の方とお話をさせていただいて、年度当初の加盟団体の連絡会などの場があるとお聞きしましたので、現時点の地域移行の取組みや地域指導者の確保に向けたお話

をさせていただきたいと考えております。また、現時点ではスポーツ少年連盟などは小学校世代までしかし対象ではありませんが、他市では中学校世代まで受け入れているという事例もありますので、そういったところも含めて検討しているところがありますので、お話をさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○石井委員

先ほど、大会出場に関わることが話題になり、小中学校体育連盟との連携の話も事務局から出てきましたが、基本的に小中学校体育連盟は大会の運営にかかわることが大きな役割となり、小中学校体育連盟の中学校専門部が大きく関係します。部活動地域移行が、細かいところまでもう少し進まないといけないのではと感じています。保健体育課部活動地域移行班の方から進捗状況をまめに連絡していただいていたので、私が懸念している人材の確保や費用の問題、部活動に対する意識の改革についての3点が課題であることをこの協議会で共通認識できたので良かったです。1点確認ですが、センター化だと遠くまで行くこととなる生徒がいると思いますが、交通費も自己負担ということで変わりはありませんでしょうか。

○事務局（桑田担当課長）

はい。交通費は自己負担となります。アンケート結果からは保護者が地域クラブで重視するところとしては活動場所までの距離だということがわかっておりますので、今の部活動と同等の活動の地域クラブは比較的近隣でできるようにしたいと考えております。ただし、ヨットなど自分の学校から遠くても通っている学校に無くても、活動に参加したい生徒が参加できる環境を整えるところまでは実現したいと考えております。

○宮下委員

地域クラブに派遣される指導者は、令和6年度と変わらず1人でしょうか。

○事務局（桑田担当課長）

はい。指導者の配置人数については今回の実証事業の課題であると考えております。基本的には1人、複数校が合同で集約化となった地域クラブは2人配置する予定です。吹奏楽などは特にご指摘をいただき、2～3人配置してほしいという声をいただいております。来年度については、複数人配置できる形で調整いたしましたので、吹奏楽に関しては2人配置できると考えております。ただし、本件に関する課題としましては、例えば同じ15人の地域クラブであった場合に、野球は指導者が1人で会費は2千円、吹奏楽は指導者2人で会費は2千円とした場合、不公平感が発生してしまうのかという点が配置人数を検討する中での課題であると考えております。競技の特性だと説明させていただこうかと思いますが、他の競技においても安全面を考えた場合に1人より2人が良いという話になってくるのではないかと考えておりますので、指導者の配置人数は大きな課題であると考えております。なお、来年度の実証事業では、指導者以外にも見守りという形で「サポーター」を配置したいと考えております。例えば、吹奏楽であれば別室で練習している生徒の見守りであったり、運動部であれば熱中症対策のケアができる等、指導だけでは無い立場の方も配置し、しっかりと安全で安心な活動ができるようにしたいと考えております。

○宮下委員

給与の額は時給1,600円というのは変わりませんか。

○事務局（桑田担当課長）

はい。

○宮下委員

部活動指導員が時給1,600円でスタートしたから地域移行も1,600円だと聞きましたが、課題に指導者の確保があり、時給1,600円が一番の壁ではないかと考えております。市として応援するとか、柏市の場合は全部の種目が複数で指導者を配置しており、主任指導者が1,600円、副主任指導者が1,200円でこの差が今問題になっているようです。今後の見通しとして市の考えをお聞かせください。

○事務局（桑田担当課長）

はい。今回の委託事業で積算単価として目安で1,600円、部活動指導員の補助単価も1,600円となっておりますが、市の部活動指導員の単価は1,800円程度となり、200円くらい差が出てきており、課題であると考えております。全体経費の算出の中で、いくらが適切なのかといったところをしっかりと判断していく必要があると考えております。会社員の指導者と話をすると、「学生なら1,600円でも良いかもしれないが、会社員なら2,000円に近い額でないと納得感は得られない」といった忌憚のない意見もいただいております。また、人件費が急速に上がる中で、どのような形で報酬を上げていくのかといった点も大きな課題であると考えております。

○吉田委員

校長会からですが、先ほどお話いただいた受益者負担の件について、実証期間中は無料だと保護者に説明しておりますが、実際に完全移行になったときにどのくらいお金が発生してくるのか保護者はイメージがつかないと考えております。また、内容充実の取組みなどを見ると保護者は当然これをやってくれると思いますので、そうすると受益者負担が上がってきてしまいますので、受益者負担に関する説明が学校も難しいというところだけご理解いただくとともに、どこまで保護者に受益者負担について説明していくかというのは、今後一緒に相談させていただきたいと考えております。2点目は、特別な支援を要する子どもたちもやはり部活動に参加したいというのは、これまで何度も声を聞いてまいりました。特別な支援を要する子どもたちの参加についてどのように考えていますか。3点目は、けがの時に適切な対応という点が非常に学校現場としては心配なところですが、そういったところも含めて、けがが起きた場合の適切な対応を指導者にどう指導していくかといった私たちの懸念点も含めて、一緒に研修の内容を考えていきたいと考えております。最後に、学校の連携という点が何よりも大事だということが本日の会議でわかりましたので、地域移行をするにあたって、学校との連携の在り方についても今後一緒に検討させていただければと考えております。

○事務局（桑田担当課長）

まず、地域クラブでは、部活動に参加している生徒を受け入れておりますので、特別な支援が必要な生徒も部員であれば参加いたしております。次に、特に研修内容については、例えば、ティースキーパーについては、養護教諭の方を研修の場にお呼びして、中学生世代のけがについて話をするといったことも、方策の1つとして考えられると思いますので、しっかりと何ができるのかということを検討していきたいと考えております。

○石井委員

吹奏楽、演劇、合唱といった文化系の部活動の話題が出ていますが、それ以外の部活動がある学校もあります。具体的には、本校には科学技術部があり、顧問は地域移行になったら兼職兼業をすることに迷いがあると言っています。それ以外にも写真部などもあると思います。運動部活動でさえ、校長同士、専門部、教員、学校の間でそれぞれ考え方に差がある中で、私は校内で部活動検討委員会のようなものをやれたらいい

な、と思っています。本校では、運動部活動以外に、文化部に所属している生徒も多くいます。そして、ここでの活動を行うことで救われている子どもたちがたくさんいるので、現場からその特徴を吸い上げていただいて、一緒に考えていきたいと思います。課題は多いのですが、子どもたちの「やりたい！」という思いを叶え、支えていくという視点の中で動いていきたいと考えておりますので、お知恵をお貸しいただき皆様と一緒に考えていければと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（桑田担当課長）

はい。科学部に関しては、打瀬中学校と都賀中学校に科学部があるのですが、この後に科学部の先生とどのような地域移行ができるのか打ち合わせをする予定です。また、特別な支援を要する子どもたちの参加についても課題であると考えております。今の部活動に入っている子どもたちが地域クラブでも同じ活動ができるように環境を整備していきたいと考えておりますので、その後に新たな活動をどのように作っていくのか考えていきたいと考えております。

○藤咲委員

令和5年度、令和6年度ともに会議に参加している中で、運動部文化部15部活から始まった改革の推進期間で、来年度にはすべての中学校でというところで、こちらの意見を反映していただきながら、推進していただいたところに感謝申し上げます。ここで得た情報を組合向けに地域移行について発信しております。周知活動についても協力してまいりたいと考えておりますので、引き続きこういった形で情報提供していただければと思います。

○川名議長

長時間にわたっての議論をいただきありがとうございました。実はこの会議、去年は3回実施しており、今年は2回となっておりますが、その分密度の濃い議論ができたと考えております。令和7年度もすぐ迫っておりますし、事業者等も選定しながら、次年度に向けての動きを着々と進めておるところです。本日会議に参加させていただき、改めて現場の課題感をひしひしと感じる中で、改善が必要なこともたくさん見つかりましたので、できる限り受け止めて、また来年度も実施していきたいと思います。本当に貴重なご意見ありがとうございました。では、事務局に進行をお返しします。

○事務局（奈良担当課長補佐）

長時間にわたり、議論いただきありがとうございました。また、今年度の推進協議会については、最後の開催となります。次年度の会議につきましては、委員の変更等があるかと思っておりますので、事務局からお問い合わせさせていただきます。以上を持ちまして、令和6年度第2回千葉市部活動地域移行推進協議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。